

審議会等会議録

審議会等の名称	第9回山口市新本庁舎整備専門会議
開催日時	令和3年11月18日(木曜日)10:00~11:00
開催場所	山口市役所第2委員会室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	山口大学大学院創成科学研究科 教授 鷗心治 山口県立大学社会福祉学部 元教授 前田哲男 一般社団法人 山口県建築士会 理事 松田悦治 一般社団法人山口県建築士会 神徳香子 山口大学大学院創成科学研究科 准教授 鈴木春菜 (5名・敬称略)
欠席者	山口大学大学院創生科学研究科 准教授 瀧本浩一 山口商工会議所 専務理事 大田正之 (2名・敬称略)
事務局	総務部:宮崎総務部長、藤井総務部次長、阿野本庁舎整備担当次長 本庁舎整備推進室:嶋壽室長 渡邊副参事 渡辺主幹 高橋副主幹、三宅副主幹
次第	1 委員長あいさつ 2 協議事項 (1) 山口市新本庁舎等基本設計【概要版】について 3 今後のスケジュール等について
内容	<p>次第に基づき以下のとおり進められた。</p> <p>【阿野次長】</p> <p>本日は大変お忙しい中、御出席いただきありがとうございます。</p> <p>それでは、ただ今から、「第9回山口市新本庁舎整備専門会議」を開催させていただきます。</p> <p>なお、本日は大田委員、瀧本委員は所用により御欠席でございます。あらかじめ、御報告をいたします。</p> <p>次に、傍聴者の皆様に申し上げます。本会議は公開としております。傍聴の際は、会議場に掲示してあります傍聴要領を御覧の上、会議の進行に御協力をお願いいたします。</p> <p>それでは次第に従いまして会議を進めてまいりたいと思います。</p> <p>まず鷗委員長より、御挨拶をお願いいたします。</p> <p>1 委員長あいさつ</p> <p>【鷗委員長】</p> <p>本専門会議は、平成30年8月に第1回を開催し、本日は第9回の会議となります。この間、駐車場台数の問題や県道の接続についての協議などがあり、当初の予定よりスケジュールが遅れております。今日は基本設計に関する最終の会議となりますので、委員の皆さんには、最終チェックをよろしくお願ひしたいと思います。</p>

【阿野次長】

ありがとうございました。

それでは、資料の確認をさせていただきます。

資料は、「次第」と「山口市新本庁舎等基本設計【概要版】」の2種類でございます。

また、マイクの使用についてお知らせいたします。

発言の際には、机上マイクのボタンを押していただき、発言終了時は同じボタンを押してください。

それでは、これ以降の進行につきましては、鶴委員長をお願いしたいと思います。鶴委員長、よろしくお願いいたします。

2 協議事項

(1) 山口市新本庁舎等基本設計【概要版】について

【鶴委員長】

それでは次第の2、協議事項に入りたいと思いますが、その前に委員の皆様方に確認がございます。

本専門会議は、原則公開で行うこととしております。また、これまでと同様に会議内容の要約等を公開したいと思いますが、よろしいでしょうか。また、報道機関から撮影の申し出がありましたので、これを許可したいと思いますがよろしいでしょうか。

(委員了承)

ありがとうございます。それでは、そのように取り扱いをさせていただきます。

報道の皆様申し上げます。撮影は傍聴席の範囲でお願いいたします。ただし、模型を見ながら協議する際には、近くで撮影されても構いません。

これから事務局に各資料の説明をいただきますが、皆様方の活発な御意見を願います。

それでは、事務局から説明をお願いします。

【嶋壽室長】

資料の御説明の前に、この度イメージ動画を作成しましたので、まずそちらを御覧いただきたいと思っております。

(動画再生)

動画は、約3分となっております。

新本庁舎の外観や周辺景観との調和など、イメージいただけたのではないかと存じます。

それでは、山口市新本庁舎等基本設計【概要版】について御説明いたします。

なお、この基本設計【概要版】につきましては、基本的にはこれまで中間報告等で説明してきたものと同様の内容を見やすく整理させていただいたものでございます。

資料に沿って説明させていただきます。

表紙をめくっていただき、1ページを御覧ください。

基本理念として、新本庁舎の目指す姿を掲げています。

一言で申しますと、「白い鐘塔に佇む、ひと・まち・未来にやさしい市民の丘」でござります。

これは、サビエル記念聖堂や亀山のふもとに佇むという情景的な特徴を生かし、さらに豊かな空間・景観を作り出すとともに、ひと、まち、未来にやさしい、機能的な市役所を目指してまいります。

2ページを御覧ください。

『「ひと」にやさしい』では、市民の皆様の利便性・サービス向上のため、総合窓口化を図るとともに、デジタル技術を活用して、“待たなくていい”、“書かなくてもいい”市役所を目指します。そして将来的には、各種証明書の発行など簡単な手続きについては、市役所に来なくても手続きができる“行かなくてもいい”市役所を目指します。

また、ユニバーサルデザインを採用して、誰もが安心・安全・快適に利用できるようにします。

そして、災害発生時においても業務を継続できるよう、災害に強い庁舎・体制を整備します。

次に、『「まち」にやさしい』では、特徴的な立地にふさわしく、シンボリックでありながらも周囲の景観や建物とマッチしたデザインとします。

そして、山口都市核づくりの主要プロジェクトとして、多様な賑わいの創出や回遊性の強化につながる場づくりを行います。

次に、『「未来」にやさしい』では、100年先まで長く使い続けることのできる庁舎を目指します。

併せて、脱炭素社会の実現に向けて、一次エネルギー消費量を40%以上削減するゼロ・オリエンテッドの達成を目指します。

そして、将来の組織改編等にも柔軟に対応できるよう、オープンでフレキシブルな執務空間を形成します。

以上が新本庁舎整備に当たっての基本な考え方でございます。

3ページを御覧ください。

こうした目指す市役所像を実現するため、設計面において、どのような技術的アプローチを行ったかについて記述しております。受託者である石本建築事務所の思いも踏まえ、設計コンセプトとして4つの丘に見立てています。

まず、市民が集う親しみをもてる市役所、「ふれあいの丘」をテーマに、すべての人が安心かつ快適に利用できる建物や空間として整備します。市民交流棟は、庁舎のエントランスとして、また、多様な活動ができるようフレキシブルな空間とするとともに、広場と一体的に利用可能な設えとします。また、活動の様子を外部へ発信できる計画とします。

次に、亀山を臨む特徴的な立地にふさわしい市役所、「私たちの丘」として、周辺の観光・文化施設と調和した、誰もが訪れたい個性のかつ魅力的な空間・景観を形成します。建物は、サビエルの塔の佇まいと呼応しつつ、パークロードや亀山の緑に浮

かび上がる特徴的な外観デザインとします。

次に、将来を見据えた柔軟な市役所、「未来への丘」として、新本庁舎棟はロングスパン架構とすることで、将来の組織改編等に柔軟に対応できる合理的な空間を形成し、また、維持管理や更新が容易な機器や材料を使用することにより建物の長寿命化を図ります。また、外皮の断熱性能の向上や設備機器の高効率化等により、建物の省エネ化を図ります。

そして、安全安心な市役所、「安心の丘」として、新本庁舎棟の免震構造の採用や非常用発電機、オイルタンク、非常用排水槽など、災害対策機能が維持できるバックアップ機能を整備し、防災拠点としての役割を果たす計画とします。

続いて、4ページを御覧ください。

新本庁舎の概要です。

まず、敷地概要ですが、計画敷地は山口都市核の中心に位置し、周辺には山口サビエル記念聖堂をはじめ、山口市民会館、県立美術館、図書館等の施設がある文化エリアであり、中心商店街とも近接しています。国宝瑠璃光寺五重塔を有する大内文化特定地域とも隣接する恵まれた立地となっています。

続いて建物の概要ですが、新本庁舎棟は鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造、免震構造で、地上6階、地下1階の7階建て、延床面積 24,276.98 m²となっています。市民交流棟は、同じく鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造、耐震構造で、地上2階、地下1階の3階建て、延べ床面積 2,968.9 m²です。そして、新立体駐車場は、鉄骨造、耐震構造で、地上4階、延床面積 9,038.73 m²となっています。駐車台数は、300台余りを想定しています。

続いて、5ページを御覧ください。

右上の概念図は、新本庁舎と周辺施設等のつながりをイメージしたもので、冒頭の基本理念で申し上げました「市民の丘」は、新本庁舎、市民交流棟、広場、そして新立体駐車場を合わせたものとなります。

配置計画でございますが、新本庁舎棟、市民交流棟、そして新立体駐車場の各建物間は、雨に濡れずにアクセスしやすいよう計画します。また、メインエントランスなどの「庁舎の顔」がパークロード側から明確に視認できるようにします。そして、市民交流棟、歩廊空間、広場を「市民交流の空間」として、内外一体的な利用が可能となるよう整備します。

動線計画については、安全で明快な歩行者動線を形づくりします。配置図の青い矢印が歩行者動線、赤い矢印が一般車両動線となります。歩行者動線としては、敷地内の歩車分離を徹底します。また、一般車の動線としては、立体駐車場へのアクセス道として、メインとなる東側、パークロード側からのルートと、南側市道から、新本庁舎棟と市民交流棟の間を通過してスロープを上がり新立体駐車場の西側に入るルートの二つを整備することとしています。

続いて、6ページを御覧ください。

施設構成計画です。

フロア構成の考え方としまして、低層階(1階・2階)には、市民利用の頻度が高い窓

口を集約配置し、総合窓口化を図ってまいります。

また、この低層階は、市民交流棟とつながっており、市民交流棟は来庁者を迎えるメインエントランスとしての役割を果たしますほか、交流ラウンジ、カフェを設け、市民活動の拠点としても活用することとしております。

また、中層階(3階・4階)につきましては、低層階に比べ市民の利用頻度が少ない部署を配置しますほか、4階には、市長室・秘書課などの市長エリアと災害対策関連諸室を隣接させ、日常的な連携を高めるとともに、災害時には即時対応可能なよう計画します。

続いて、高層階(5階・6階)につきましては、5階に消防本部、指令室など消防関係の諸室、6階に議会関連諸室を配置します。

なお、地下1階は、主に公用車の駐車場となります。

続いて、7ページを御覧ください。

各フロアの平面計画についてです。

各フロアの共通プランとして、南北の両端に階段室・エレベーター・機械室などを集約し、中央の執務室のフレキシビリティを高める計画としています。階段・エレベーターは、南北両端のほか中央にも配置し3か所設けます。

トイレについては、各階、南北両端の同じ位置に配置し、バリアフリーや男女共用個室も整備します。

以下、10ページまでは各フロアの平面計画となっております。

続いて、11ページを御覧ください。これより、渡邊のほうから説明いたします。

【渡邊副参事】

意匠計画、外観デザインです。

外観コンセプトとして記載しております①から④までが、外観デザインの考え方、四つの柱になります。

図①鐘塔との調和として、新本庁舎棟・市民交流棟の外観は水平庇を基調とすることで、山口サビエル記念聖堂の白い鐘塔の垂直性と呼应し、亀山の豊かな緑と一体となった、ここにしかない景観をつくります。下段右側のスケッチが設計の当初からのイメージで、「緑の丘の上にサビエルの鐘塔と庁舎が浮かび上がるこの地にしかない景観」です。

図②歴史との調和として、新本庁舎棟は各階に設けた庇が重層するデザインによって、国宝瑠璃光寺五重塔の屋根の重なりを想起させる外観とし、建物に奥行と重厚感を与えます。

図③景観との調和として、新立体駐車場についても記載しています。新立体駐車場、パースの右側茶色の建物ですが、駐車場の外壁面に重層する緑化と縦ルーバーを設けることで、緑が立体的に連続する、亀山に溶け込むデザインとします。

また、100年先まで長く使い続ける庁舎として、外観デザインの大きなポイントである水平庇があることによって、建物の壁や窓ガラスが紫外線や雨の影響を受けにくく、メンテナンスバルコニーとしての役割も果たすことで、定期的な点検補修が行いやす

い計画としています。

続いて、12ページを御覧ください。

ユニバーサルデザイン計画につきましては、中間報告での説明からビジュアルを変えております。写真を大きく使い、見やすくしました。右上の写真が総合案内のイメージ、中段、下段に窓口や待合のイメージ写真を加えております。

続いて、13ページを御覧ください。

環境配慮計画です。

ゼブ・オリエンテッドの達成に向けて、一次エネルギー消費量を40%以上削減、ダウンサイジングすることを明記しております。

続いて、14ページを御覧ください。

防災計画です。

これまでは名称をBCP計画(業務継続計画)としていましたが、防災計画に変更しています。また、中間報告での説明から、4)の災害発生時における各施設の機能を追加しております。

続いて、15ページを御覧ください。

構造計画につきましては、新本庁舎棟は免震構造、市民交流棟は耐震構造となります。右の図、架構イメージ2を御覧いただきますと、構造の筋交いを建物南北の両端コアに集中配置しています。図中の赤い部分が構造の筋交いです。南北両端の構造コアに、地震時に発生する水平力を集中的に負担させる計画とします。それにより、左下の架構イメージ1のように建物中央部の柱の数を減らし、フレキシブルな大空間を確保することが可能となります。

続いて、16ページを御覧ください。

諸施設計画です。

諸施設整備を行う目的として、山口都市核の中心に位置する強みを生かし、まちなかウォークアブル重点エリアにふさわしい、新たな賑わいの創出、中心商店街・大内文化特定地域等への回遊性向上に向け、市民交流棟、広場を整備することを記載しております。上段の最後に、周辺道路についても記載しています。居心地がよく歩きたくなるまちなか実現のため、周辺道路の整備を行うことを記載しております。

下のイメージパースでは、市民交流棟、四つの広場、新立体駐車場について、引き出し線でそれぞれの役割や具体的なアクティビティを示しています。

続いて、17ページを御覧ください。

工程計画につきましては大きく1期工事と2期工事に分かれていますが、1期工事はステップ1として現中央駐車場を先行解体し、ステップ2で新本庁舎棟を建設します。新本庁舎棟の完成は令和6年度末となります。新本庁舎棟完成後に、2期工事としてステップ3で現庁舎を解体し、ステップ4として市民交流棟、新立体駐車場の建設、広場整備を実施します。2期工事の完了は令和8年度末となります。

【嶋壽室長】

最後に、概算事業費についてです。

1)概算事業費は、新本庁舎棟約131億8,400万円、市民交流棟約14億1,600万円で、合わせて約146億円となります。この他、新立体駐車場、広場等整備、その他経費を合わせ、総額約188億9,150万円を見込んでいます。

2)想定財源としては、国の交付税措置があり有利な財源であります合併推進債を約161億140万円、庁舎建設基金を約27億9,010万円充てることを想定しています。なお、これまで積み立てた庁舎建設基金は、約50億2,900万円で、建設費に充当した残額の約22億3,890万円は、合併推進債の元利償還に充てることを想定しています。

そして、将来負担額の試算ですが、合併推進債の元利償還金から40%の交付税措置額と庁舎建設基金の残額を差し引いた、実質将来負担額は約77億5,770万円を見込んでいます。

なお、こうした財源充当を基本としながらも、補助制度等の活用により、市の負担軽減に努めてまいります。

説明は以上でございますが、本日御欠席の委員から、本基本設計概要についてのコメントを事前にいただいておりますので、御紹介をさせていただきます。

A委員からは、「最終案については改めての御意見はなく、実施設計においてさらにいいものとなるようお願いしたい」。

B委員からは、「この委員会において様々な要望に対して前向きに御対応いただいたことに対して感謝申し上げます。今回の概要版が、市役所を利用する市民からの視点、あるいはそこで仕事をする職員の視点、そしてデジタル化や脱炭素社会の構築といった将来の山口市、ひいては世界的な課題の解決に向けて、いいかたちで基本設計に向けてまとまったのではと考えている。」そして、一点だけ改めての要望、意見として、「今後の実施設計に向けて、市民利用が最も多い1階の待合室から執務室にかけての天井までの高さについて、市民に対して威圧感の無いような、ゆったりとした高さを確保していただくようよろしくお願いいたします。」とのコメントでございました。

なお、B委員御指摘の天井高についてですが、本庁舎棟の2階より上の階高は4.2mで、天井高については2.7mを確保することとしておりますが、1階については階高4.8mを想定しておりまして、上階に比べ、できるだけ高い天井高となりますよう実施設計で検討してまいりたいと考えております。

以上で、説明を終わらせていただきます。

【鶴委員長】

ただ今、事務局から説明がございました。

それでは、委員の皆様から何か御意見・御質問はありますでしょうか。

【C委員】

今までたくさんいろいろ議論してきて、最終的にこういう形でまとめていただいても大変だったと思いますがいい案になったと思っています。特に私が気に入っているのは、この立体駐車場の感じと市民交流棟の入ったところの内観パース、天井など

は山口らしい大内菱を意識した感じでとても素敵だと思っております。さらに要望として、徳地和紙などを内観に使うのはなかなか難しいかもしれませんが、山口に徳地和紙など素敵な文化があるということを紹介できるようなコーナーというか、例えば市民交流棟の中の黒い間のパーテーション、サッシに徳地和紙を少し使っていただくなど山口らしい雰囲気を出していただけると良いかなと思っています。

【鶴委員長】

ありがとうございます。非常に肯定的な御意見をいただきました。基本計画の際にも指摘されましたが、山口の素材とか山口らしい材料をこれから内装、内観をやっていく上で是非使っていて、オンリーワンというか、ここだけのデザインに仕上げたいってほしいという御意見だったと思います。

事務局何かございますか。

【嶋壽室長】

内観、内装の仕上げ計画などは今回お示し出来ておりませんが、こちらについては実施設計の中でしっかり検討してまいりたいと思っておりますので、今いただいた徳地和紙であるとか、山口の特徴的な製品については、取り入れていけると思っていますので、そういったところはしっかり検討して取り入れていきたいと考えております。

【鶴委員長】

ありがとうございました。その他ございますでしょうか。

【D委員】

コロナ渦の中でよくここまでまとめていただいたと思って、関わった方々に感謝申し上げます。特に設計の細かいところはいろいろあると思いますが、設計コンセプトで4つの丘というようなことで、非常によくまとめていただいたと思っています。

駐車場の辺りと本庁舎との連携という、この辺についても十分整理がされていると思います。特に最近の建築では木材振興ということがありますので、実施設計にあたりましては地場産材をしっかり活用できるようなことを考えていただけたらと思います。

非常にオープンですが、気になるのは歩道を歩いてきた目線が丘になっているので、肝心の根本が見えにくいというか、ちょっと圧迫感があると思うので、このパースのように屋外計画の折には歩く人の目線も意識をして屋外計画を作ってほしいと思います。

先ほどの説明にもありましたが、旧駐車場の解体に際して、いつも私が散歩する時にコンクリートの擁壁があって、新しい庁舎ができたときにこれを残すと何か心配だなと思って今日も歩いて来たんですが、断面図が無いのでよくわからないのですが、パースではなくて断面図を作るとスマートにオープンに実施設計の際には考えていただけたらなと思います。以上でございます。

【鶴委員長】

ありがとうございます。コンセプトとか駐車場と本庁舎の関係とかについて非常によくまとまったとの評価をいただいたところでございます。1点目は、駐車場と地場産材の点については実施設計で実現させていただきたいとのことです。これは地形上の問題もありますが、一層分 GL から上がっているので、どうしても見上げの感じから足元が見にくいという点があると思います。外部空間の大屋根の擦り付けの角度とか、そういったところも実施設計ではいろいろ検討する余地があるのかな、水辺からステップから広場のレベルとかの擦り付け方とかも、ある程度検討する余地があるのかなと思いますので、事務局の方で引き続きこの辺りも検討いただきたいと思います。

【E委員】

私もこの駐車場や自動車の動線、それから広場について、本当によく検討していただきありがたいなと思います。こんなに威圧感のないやさしい雰囲気のある役所というのは見たことがないので、すごく楽しみだなと思います。その上で2点ほど実施設計に向けて御検討いただきたいと思いますと思っています。1点目は広場から道路につながる細かな部分ですが、この広場ないし、この市役所が賑わいの創出に今後つながっていくように、街なみとの一体感ができるような仕掛けとして、例えば照明とかベンチとかサインがですね、その他の隣、近所の部分でもつながっていけるようなデザインにするなど、周辺との対話がもしできたら良いのかなと考えておりますので是非お願いいたします。

今回の資料で、今後、公用車を電動車や燃料電池自動車に順次移行していくとの話がありましたが、現在過渡期でこれからも一気に変わる可能性もあるし、あまり変わらない可能性もあるし、先行きが見えないような状況だと思っておりますので、充電スポットということがありますが、是非スポットで準備するというよりは、もし今後追加で設備投資が必要となったときに過度な負担が必要にならないように、事前に工夫できることがあれば御検討いただければと思います。もちろん後で整備しても同じであればそれで良いのですが、もし事前に配慮できる点があればお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

【鶴委員長】

ありがとうございます。広場と駐車場の関係について、威圧感のない役所は初めてだということで非常に良い評価をいただいたと思います。1点目は、広場から道路にかけてのやさしい感じの設えであるとか照明とかそういったところに配慮していただきたいとの点。2つ目は、電気自動車等に移行していった際の設備関係の整備とか、事前に可能な部分についてはやっていただきたいという点でございます。

この件とD委員さんの件についても事務局の方から御回答いただけますか。

【渡邊副参事】

D委員さんの御意見に対しましてお答えいたします。

まさしく省エネ、それから木材利用については非常に重要と考えておりまして、地場産材につきましても徳地の滑松など在庫を確保していただいております。こういったところを市民交流棟を含めた内装材に使う山口らしさをしっかり出していきたいということで、木材をいかに上手にバランスよく配するかというのは、非常に実施設計の中で肝になってくるというふうに我々も感じているところでございますので、またその辺りは是非いろいろな御意見を聞かせていただいて、進めさせていただければありがたいなと考えているところでございます。

続きましてパークロードから広場を介して、建物の1階を見たときに足元が見切れてしまうというところ、まさしくそのとおりで、高低差が2メートルから3メートルありますので、その辺り、おっしゃられるようにひな壇状にするとかそういったところで、活動が新本庁舎棟、市民交流棟、広場も多目的広場、芝生広場とありますが、パークロードから見たときに、その3つ、4つのそれぞれの空間が重層して見えるような形の立体構成的な計画がすごく大事だろうと先ほど御指摘いただきまして、実施設計に反映する必要がと感じたところでございます。

そして、既設の擁壁につきまして、これも今から実施設計の中で、まさしく古い擁壁が残っていると強度的な問題もございまして、景観的、機能上の問題もでてくると思いますので、この辺りも御意見を踏まえましてしっかりと実施設計に反映してまいりたいと考えております。

【嶋壽室長】

私のほうからはE委員さんから御意見をいただきました、広場についてやさしい設えをということで周辺との調和をということだったと思います。こちらについても広場の整備については、今後、令和7年度以降の整備ということで2期工事になりますが、それまでの間にしっかり詰めてまいりたいと考えております。そうした中で、市の方で今進めておりますまちなかウォークアブルの構想もございまして、居心地がよく歩きたくなるようなまちづくり、そちらとも調整を図ってまいるなかで、広場について立ち寄っていただく居心地が良い場所として設えていく、そういったことで市民の皆様にはゆっくりとした時間を過ごしていただけるような滞留空間、溜り場として活用いただく整備をしてまいりたいと考えております。

もう1点、燃料電池とか水素エンジン等の自動車関係についても、今後技術開発が行われ変わっていくということで、過渡期というお話がございましたが、こちらについてもしっかりアンテナを張りまして、後戻り、手戻り感が無いようにしっかり準備をしていければと思いますし、設計事業者とも調整をしながら進めてまいりたいと思います。

【鶴委員長】

ありがとうございました。

【F委員】

基本設計につきましては、よくここまでまとめていただいたなど大変感謝しております。

す。実施設計にあたりまして、ユニバーサルデザインですが、基本設計段階ではまだ基本的な考え方しか出てきておりません。実際に点字ブロックをどうつけるか、手すりをどうつけるかによってかなり使い勝手が変わってきますので、今後実施設計の際には、是非関係者の意見を聞きながら、良いデザインを目指していただきたいなと思います。

それと、実施設計のあと今後は建設工事が始まるわけですが、工事の仕方によって建物の質が大きく変わっていきます。工事の会社を選ぶ際には、価格だけではなくその会社が持っている技術力ですね、そこもきちんと見極めて会社を選んでいただきたいなと希望しています。

【鵜委員長】

ありがとうございます。1点目は、実施設計に向けてユニバーサルデザインのディテールを詰めていくときに関係者の意見をよく聞いて詳細を決めていった方が良いということでした。2点目は、建築工事については価格にとらわれすぎずに、建築の質を十分注意した契約方法を考えてほしいとのことでしたが、事務局いかがでしょうか。

【嶋壽室長】

まず、ユニバーサルデザインに関する今後の関係者の御意見をということでございますが、基本設計の方が出来上がりましたので、今後は実施設計に入る段階で関係者の御意見を聞くということで、今考えておりますのは、ユニバーサルデザイン関係の協議を行う関係団体の皆様を委員とする、市の方で設置しているユニバーサルデザイン推進検討会という協議会がございます。そういった検討会の中で基本設計についてお示しをしながら、実施設計に向けて御意向をお聞きして、実際にそういった御意見を踏まえて設計の方を進めるというような作業を、年が明けたぐらいから進めたいと予定しているところです。今後、福祉部局と一緒に調整をしまいたいと考えておりますので、実施設計にあたってはしっかりそういった意見を取り入れて進めたいと考えております。

そして、しっかり技術力を見極めて業者を選んでほしいという点でございますが、やはり価格競争だけではなくそういった部分も踏まえて、より良い事業者を選んでいけるように今から研究してまいりたい、他市の事例も踏まえて調整してまいりたいと思っております。

【鵜委員長】

ありがとうございます。

皆様の方からご意見いただきました。

皆さんからは、基本設計案については概ね肯定的な御意見をいただきましたので、この基本設計をベースに実施設計に向けて、いくつか意見をいただきましたが、この意見を踏まえて実施設計の作業を進めていっていただきたいなと思います。

この会議では、山口市新本庁舎等基本設計【概要版】の内容について、委員の皆さんで承認したということにしたいと思います。皆さんよろしいでしょうか。

(委員了承)

ありがとうございました。

それでは、今日いただいた御意見については、実施設計に十分反映しながら作業を進めて行っていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、議題の3番目、今後のスケジュール等について事務局から説明をお願いします。

3 今後のスケジュール等について

【嶋壽室長】

それでは、今後のスケジュール等について申し上げます。

まず、今後のスケジュールといたしましては、本基本設計概要版について、12月中旬から翌年1月中旬までパブリックコメントを実施いたしまして、その後は、本格的に実施設計の作業を進めてまいることとなります。

次に、本専門会議の今後の取扱いについてでございます。

山口市新本庁舎整備専門会議設置要綱では、第2条で会議の所掌事務として、基本計画及び基本設計に関し意見、助言をいただくこととしており、第4条でその任期は基本設計完了の時までとされております。

したがって、本日の専門会議が最後の会議となろうかと存じますが、引き続き、委員の皆様には、公開の会議という形にはなりません、実施設計においても情報提供をさせていただきながら、必要に応じ御助言を賜ればと存じます。

どうぞよろしくお願いいたします。

【鵜委員長】

ただいまの説明に対して何か質問がありますでしょうか。

事務局から説明がありましたとおり、今後のスケジュールとしましては、12月中旬からパブリックコメントを実施ということで、この意見を踏まえて、いよいよ実施設計という段階に入りました。

また、この専門会議は本日が一区切りということでございます。委員の皆様には、これまで9回の専門会議、それと非公開でございましたが5回の勉強会をやりまして、非常に熱心に議論していただきました。今後、公開ではありませんが、情報提供をしてもらいながら助言をいただきたいという今の意見でしたので、また事務局からダイレクトメールが来るかもしれませんが、その節はどうぞよろしくお願いいたします。

我々としても実施設計に向けて努力してまいりたいと思います。

今日、最後の専門会議ということでございます。先ほど申し上げましたが、9回と5回、14回の会議ということ、それから平成30年から引き続きやってきました。私も個人的には敷地を決めるところから関わっておりまして、非常に長いこと庁舎の検討には関わってきました、ようやく基本設計が一段落ということで非常に嬉しく思っており

	<p>ます。これからが事務局にとっても大きなミッションになってまいりますし、もちろん建築が終わるのが、最終的には令和8年度末でまだまだ先のことですので、引き続き大変だろうと思いますが、良い県都の庁舎になるように頑張っていたきたいというふうに思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、今日の検討会議の次第は以上ですので、進行を事務局にお返しいたします。</p> <p>【阿野次長】</p> <p>鵜委員長はじめ、委員の皆様、最後まで熱心な御議論、そして貴重な御意見・御助言を賜り、誠にありがとうございました。</p> <p>本日いただいた御意見を今後の設計作業に生かしてまいりたいと考えております。それでは、会議はこれで終了とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
<p>会議資料</p>	<p>・次第 ・山口市新本庁舎等基本設計【概要版】</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>総務部 本庁舎整備推進室 TEL 083-934-4151</p>